

尾道市立美術館

尾道市立美術館は市の中心部を見下ろす小高い山の上にある千光寺公園に建っており、徒歩または千光寺ロープウェイで行くことができます。1980年に最初に開館したこの美術館は2003年に著名な日本人建築家、安藤忠雄氏によって再設計されました。安藤氏は元の建物を改装して新館をつけ加え、その新館が今では正面玄関になっています。特に新館は、飾りのない打ちっぱなしのコンクリートに大きなガラスのパネルを組み合わせるといふ、安藤氏が好む素材を見ることができます。新館と本館は外からは離れているかのように見えますが、中に入ると滑らかに繋がっています。

本館の伝統的な瓦屋根は、近くにある西郷寺の瓦屋根の形と構造を模して設計されたもので、美術館の2階の出窓からは壁に掛かる美術作品に勝るとも劣らない尾道の美しい景観が望めます。館内には、来館者がただ眺めを楽しめるように設計された建築上の余白である、このような開けた静かなスポットが数多くあります。

この美術館には地元や世界中のアーティストによる様々な作品が収められており、大半が尾道に関連した作品ですが、安藤氏の建物で最も安らいでいるように見えるのは、モダニズムの家具の数々です。チャールズ・イームズ（1907-1978）とレイ・イームズ（1912-1988）やジョージ・ネルソン（1908-1986）といったアメリカのモダニズム・デザイナーの椅子が、来館者が座れるように館内のあちこちに配されています。いかにも安藤氏の設計らしく、新館の床から天井まで届くガラスはゴツゴツした打ちっぱなしのコンクリートの壁に面しています。新館のすっきりした輪郭は、太陽が天空を移動するにつれて、床と壁に鮮やかな影を描きます。